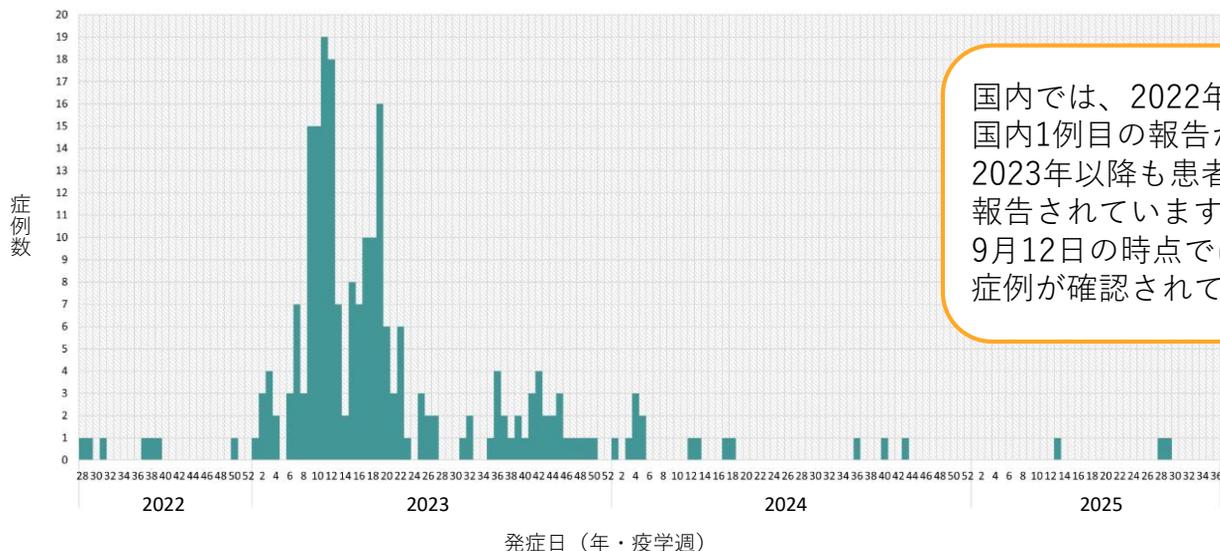


エムボックスについて

◎エムボックスとは？

「エムボックスウイルス」による感染症です。エムボックスウイルスはクレードⅠ（中央アフリカに常在するウイルス）とクレードⅡ（西アフリカに常在するウイルス）の2系統に分類されます。

当初クレードⅠはクレードⅡと比較して致命率が高いという報告でしたが、新たな知見が蓄積されることで、いずれのクレードでも致命率は過去の報告より低く、適切な対症療法により低下すると報告されています。



◎症状は？

- ・発熱、頭痛、リンパ節の腫れなどの症状が0～5日程度持続し、発熱1～3日後に発疹が出現します。
- ・発疹は顔や四肢に多く出現し、徐々に水ぶくれ状になり、最終的にはカサブタとなって剥がれ落ちます。
- ・多くの場合は2～4週間ほど症状が続いた後自然に回復しますが、小児例や患者の健康状態、合併症などで重症化することがあります。
- ・致死率は、適切な治療により数%となると報告されています。
- ・潜伏期間は、通常7～14日（最大5～21日）とされています。

◎感染経路は？

- ・アフリカに生息するリスなどのげっ歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有する動物との接触
- ・感染した人や動物の皮膚の病変、体液、血液との接触（性的接触を含む）や患者と近距離での対面で長時間飛沫にさらされること、感染している人の使用した寝具等との接触など

◎治療・予防方法は？

- ・症状に応じた対症療法が行われます。
- ・国内では、抗ウイルス薬のテコビリマットが薬事承認されています。
- ・天然痘ワクチンによって約85%の発症予防効果がありますが、一般には流通していません。
- ・流行地でエムボックスウイルスを保有する可能性のある動物や感染者との接触を避けましょう。